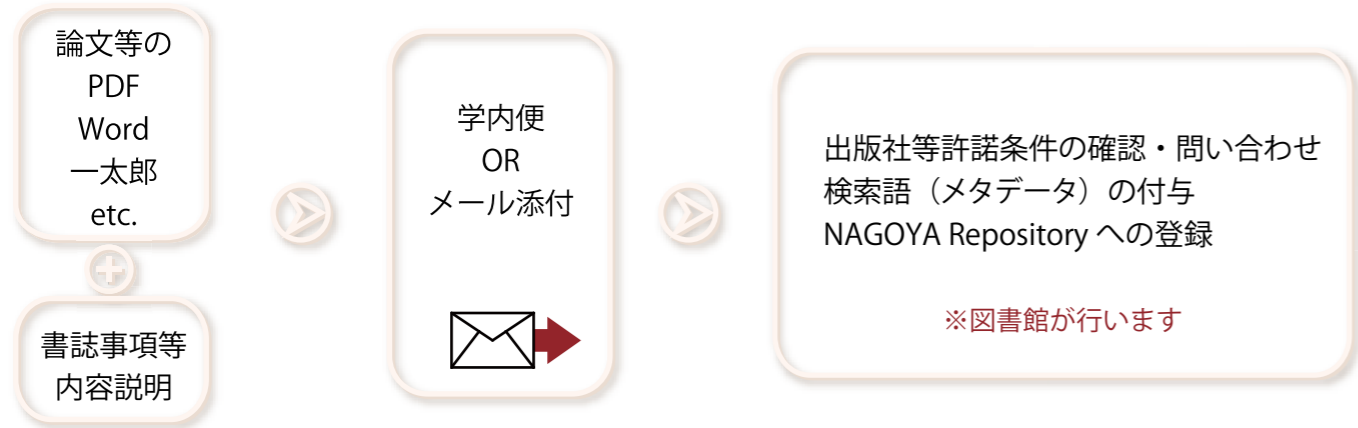


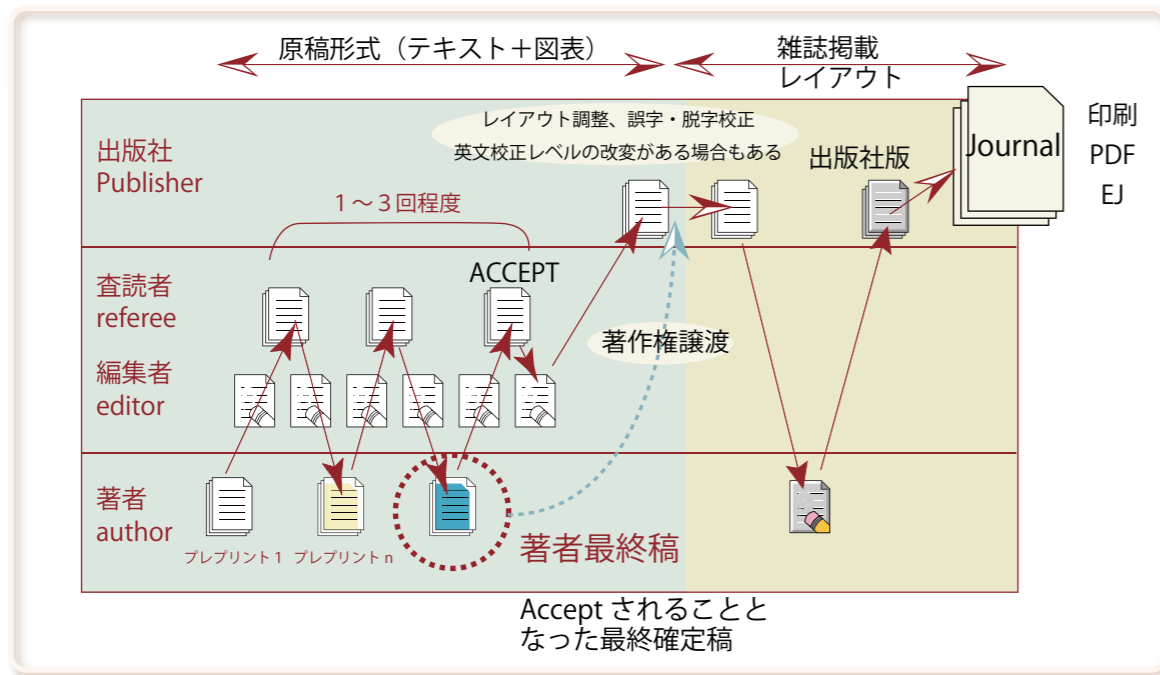
論文等を NAGOYA Repository に登録するにはどうすればよいですか？

**Q** 電子ファイルをメールの添付または学内便でお送りください。ファイル形式は問いません。  
 お近くの図書室にお持ちいただいても OK です。併せて書誌事項 (掲載誌名 / 巻号など) をお知らせください。  
 共著者がある場合には、あらかじめ公開について了解を得てください。書面である必要はありません。



雑誌掲載時に著作権を出版社に委譲していますが、無償で公開することに問題はないのですか？

**Q** Elsevierをはじめ、欧米の主要な出版社や学会はなんらかの形で著者がセルフアーカイブすることを認めています。これらは Green Journal とよばれ、Publisher copyright policies & self-archiving (<http://www.sherpa.ac.uk>) によると、その割合は 94% に達し、多くは査読済みの著者版 (著者最終稿) の掲載を許可しています。  
 下図を参考に著者最終稿をご提供ください。その他の掲載条件や、ポリシーを公表していない出版社・学会についても、図書館で調査及び問い合わせを行い、問題のない形で公表しますのでご安心ください。



# 名古屋大学学術機関リポジトリ

NAGOYA Repository は、名古屋大学の研究成果を電子的に収集・保存することによって、貴重な学術成果を散逸させることなく未来へ継承すると同時に、インターネットを通じて広く世界に発信する役割を担います

## 名古屋大学附属図書館

名古屋大学学術機関リポジトリ担当  
(学術電子情報掛)

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/>

お問い合わせ : [ir-admin@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:ir-admin@nul.nagoya-u.ac.jp)  
052-789-3691

ファイル送付 : [ir-submit@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:ir-submit@nul.nagoya-u.ac.jp)

# 学術コミュニケーションの新たなしくみ



世界中の学術機関がリポジトリ構築に取り組んでいます

**855**

大学や研究機関が設置する機関リポジトリと、研究分野別の主題リポジトリを合わせて、2007.3.22 現在、世界には 855 ものリポジトリがあり、急速に普及しつつあります。日本国内でもすでに 32 の機関リポジトリが公開されており、今後さらに増加する見込みです。これらのリポジトリから検索データをハーベスティングして、統合的に検索できるサイトとして、ミシガン大学の OAIster や、国立情報学研究所の JuNii などがあります。リポジトリに登録された学術成果は、Google や Yahoo! などのインターネット検索エンジンからも視認性が高くなります。

- 研究論文
- 紀要論文
- 学会発表資料
- 学位論文
- 教材
- etc.

名古屋大学の教育・研究成果

**Scholarly Output**

学術文献へのアクセス障壁をなくすために

## Open Access

学術雑誌の価格の高騰に伴い、多くの大学・研究機関において、必要な雑誌タイトル購入の予算確保が困難になり、教育・研究に影響をおよぼす事態がおきています。

このような状況に対し、学術文献の本文を誰もが無料で閲覧できる環境を創り出すための活動が、オープンアクセス運動と呼ばれています。学術機関が、その研究成果を自主的に保存・公開する機関リポジトリを充実させることによって、学術文献へのアクセス状況の改善を実現することが可能になります。

国内外の研究者等

検索

Search

リポジトリ統合検索サイト  
JuNii (国立情報学研究所)  
OAIster (ミシガン大学)

Google Scholar  
Yahoo!

Crawling  
OAI-PMH Harvesting

発信

国際標準規格に基づいた検索データの提供による効率的な発信

**AKF**  
Academic Knowledge Factory  
名古屋大学  
学術ナレッジ・ファクトリー

名古屋大学  
学術機関リポジトリ

**NAGOYA**  
Repository

公開  
Open  
保存  
Archive

登録  
Deposit

NAGOYA Repository は、名古屋大学の構成員(教員・研究員・大学院生等)が名古屋大学在籍中に行った教育研究活動の成果について、広く対象としています。

学術雑誌掲載論文、学位論文、学会発表論文、国際会議報告(Proceedings)、プレプリント、研究報告(Working paper)、技術文書、調査報告、教材などがあげられます。

## NAGOYA Repository

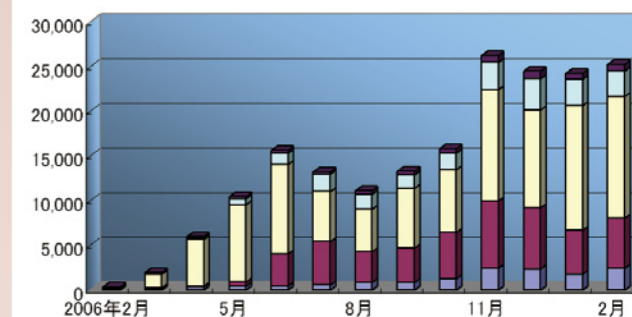
NAGOYA Repository は名古屋大学の研究成果のショーケースの役割を果たします。

また、大学の教育・研究成果を積極的に発信し、社会に還元することで、社会貢献および説明責任を果たすことにもなります。

研究者にとっては、Visibility(可視性)の向上によって、これまでより、より多くの読者を獲得することが期待できます。また、散逸しがちな大切な研究成果を永続的に保存することができます。

NAGOYA Repository により公開された資料の総ダウンロード数は 2006 年 2 月の公開から 1 年間で 19 万件に達しています。

NAGOYA Repository ダウンロード統計  
Feb 2006 to Feb 2007



**NAGOYA Repository** は学術情報発信をサポートします